



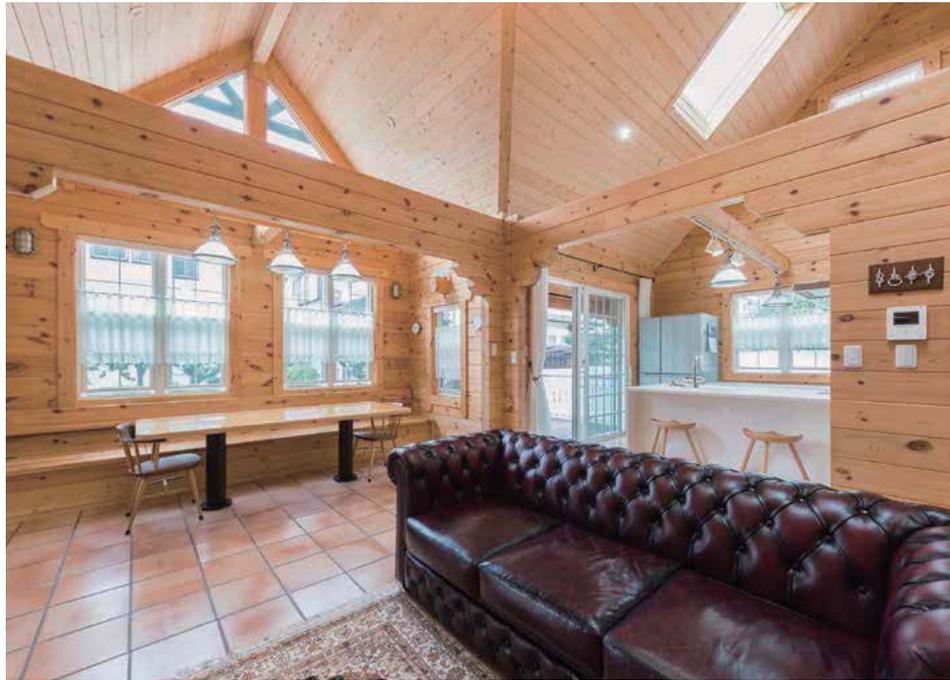
カウンターも広々、対面キッチン。人工大理石を自社で作るヤマハ製。



玄関の石貼りはオーナーさん自ら。



玄関を外から。右窓はキッチンの明かり取りと風通しのため。



木目と白で明るい空間を創出。窓の下のベンチはヨットの「パース」を模した。

**天井高く開放感あるリビング
フルドーマーの2Fロフト**
建ちあがった姿を、今、拝見すると、飯東さんのこだわりが、随所に見られる。何と

「ご近所さんは顔なじみばかりなので、建てやすいという判断もありました」
メーカーはこう話す。何社か比べ、目に留まったのがサエラホームさん。
「ログ材がしっかりしていて、中国に自社工場を持ち、原木から一貫して生産してくれることが気に入りました」
そして、もう一つ、セルフビルドに前向きになってくれるところがいい。
設計は、なんとご自分で。独学で勉強し、サエラホームさんも、親身になって教をくれた。何度も、何度も、書き直した。
その基本思想は、こう。
前の家は子育ての家、今度は、老後の家だ。二人で広々とした空間で過ごそう。だから屋根まで吹き抜けのリビングとし、2Fはロフトのみ。寝室、キッチン、お風呂、トイレは、バリアフリーの1Fで全て完結。
ところが少し事情が変わる。
「夫婦の息子さん、実は、実業団のヨット選手。その所属先が東京の会社に決まったとき、練習場所は江の島になった。だから、ここに拠点を作った方がいい。」
「本社は東京、勤務地は江の島。みたいな（笑）。だから、予定外に2Fに息子用の部屋を作ることにしました」

実例紹介2

飯東邸 横浜市



飯東さん(62)は、無線機メーカーをリタイヤ。右は奥様。

大好きなセーリングのテイストを
メーカーさんのサポートで実現

セルフビルドは、ログハウスの魅力の一つ。全部じゃなくても、部分的でも、手掛ける意味は大きい。そこには、自分らしさを表現できる喜びがある。例えば、ここでは、大好きなセーリングのテイストをちりばめて見た。その時、メーカーさんの後押しは、心強いサポートになった。

オーナーさんからの「一言」

「メーカーの「仕上げ感」よく見て」

ログハウスは特殊な建築なので、なかなか悪い通りのものにならないでしょう。メーカーによってギャップがあるので、メーカーの「仕上げ感」をよく見て、自分に合うところに決めるといいでしょう。



屋根こう配は「これぞログ」と言った感のある90度。細部には、ヨット関連の装飾が随所にある。

**丘の途中のログハウスは
セーリングのテイスト**

横浜のベッドタウン戸塚。近年、再開発が進んだ駅前を後にし、周囲へと足を延ばすと、ゆるやかな丘陵地を覆うように住宅地が広がる。
その一画、いくらか坂を上った途中に、なかなか目を惹く、積み木の家のような雰囲気ログハウスが佇む。
飯東さん「夫妻のお住まいだ。」
「わあ！」
一歩足を踏み入れて、思わずこぼれたのは、取材班の感嘆の声だった。
天井が高い！
そして、どことなく、普段見るログハウスとは違う新鮮なテイスト。
見れば、ヨットの模型、イカリの模型、ローブワーク、航海灯などが。
「主人はクルーザー乗りなんですよ」
「趣味の域を出ませんが（笑）」
ははあ、セーリングのテイストにまどめてあるわけですか。

**サエラホームさんに教えてもらい
何度も書き直した自作の設計図**

ご夫妻がこの家を完成させたのは昨年の秋。当初は、海の近くに建てようと思った。そんな折、もともと任んじていたこの住宅街の一角が売りに出た。元の家に娘さん夫婦を残し近くに住もうと、あっさり結論。



明るい寝室では爽やかな目覚めが。

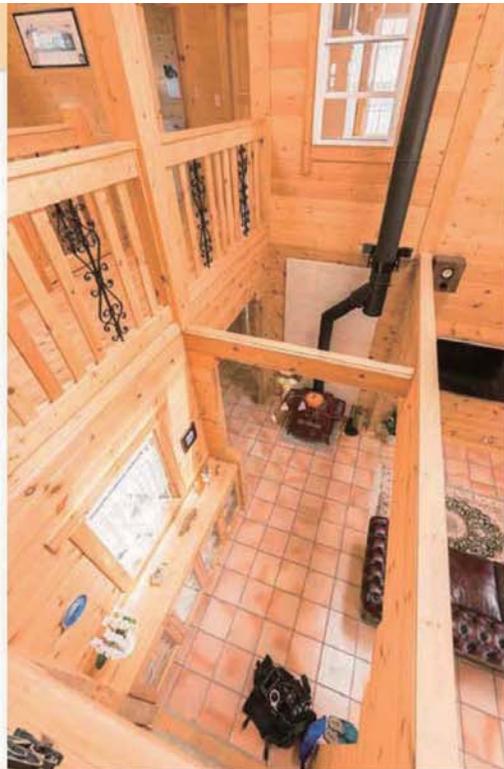


フルドーマーのロフトは広々。ヨット仲間には合宿で難産。



息子さんの部屋。窓から風が抜ける。

工夫を凝らした我が家での暮らしはいい。広い空間は気持ちよく、住みやすい。自作にこだわったのは、時間がかかったが、良かった。工賃を稼いだ分、資材に妥協せず思い通りの意匠にできた。



ロフトから見下ろす。リビング床はイタリア製のテラコッタ。

置テーブル流りをなまじ。特にやっかいだったのはエアコンの設置における配管。せまいところに潜って、硬いダクトを折らないように曲げて、曲げて、四苦八苦。セルフにこだわるのは、飯東さんによると「船乗り精神。船の上では、何から何まで自分でやる。ロープ、器械操作、料理等々。それが海を乗り切るクルーの条件だ。」船が教えてくれたことはあちらこちらに見つけることができる。うなづいたのは、リビング南面窓下の作り付けのベンチだ。これは、ヨットのベンチ「ベース」を模したものだ。断面を持ち上げると収納になる。奥様曰く「年取ると高い位置の収納は危ないんです。これならケガしません。」そして、「ご主人曰く「船は収納の神さま」。直線と曲線の組み合わせでスペースを作る。限られた空間で生活するので、決まったものは決まったところに置くのが鉄則。」

LOG HOUSE DATA



■ 1 階：100.61㎡



■ 2 階：57.75㎡

■ デッキ：14.89㎡

サエラホームの
ワンポイントアドバイス

販売様は明確な完成イメージをお持ちで、我々のログでどのようにイメージを実現するか、打合せに多くの時間を費やしました。フリープランで建築をご検討の際は、余裕あるスケジュールが資金計画と同じくらい大切ですよ。

奥様は、デッキ、ロフトに洗濯物を気持ちよく干せる。家事をしていて、風が涼やかだ。掃除は、思ったよりラク。娘さんは、毎日、お孫さんを連れて来る。「ジイジお帰れ」一家族と暖炉の灯りでお迎える、冬の晩に幸せを感じる。木の香と共に暮らす新しい航路へ。今、帆つぱいに風を受けたいところだ。



デッキからリビングを見る。右下ベンチは収納にも。



風通し窓を開けると、夏も気持ちよく調理できる。



南窓からリビングを見る。上照明はヨット用を自分でつけた。



洗面台。



浴室。



薪ストーブはバーモントキャストینگ。

**船が教えてくれたこと
工夫を凝らした我が家の暮らし**

セルフで手掛けたのはデッキだけではない。外壁のペンキ塗り、玄関の石貼り、タイル貼り、薪ストーブと煙突の設置、照明の設計と格闘。塗りは塗装屋が担当。雨や台風風や下工期は伸びる運命はどかかった。

「サ・ログ」(笑)だと思っんです。これに對し、ご主人曰く「サエラさんのポリリシーは110度、對しては90度。社長さんと激論を交わしましたよ(笑)」

2Fの部屋とロフト以外は、遮るものがなく、ぽっかり空いた空間には、日光がさんざん降り注ぐ。天窓は、メーカーからいちばん大きなものを取り寄せた。この天窓と1Fの掃出しを全開にすれば、丘陵を走る風が下から上に吹き抜ける。

でも、冒頭で取付班が騒いだりリビング。まず、天井が高くて高い。いちばん高いところまでは8メートルほど。これは、屋根のこう配を急にしたことも関係するだろう。

なぜ、急にしたかと言えば、奥様曰く「これぞ「サ・ログ」(笑)だと思っんです。これに對し、ご主人曰く「サエラさんのポリリシーは110度、對しては90度。社長さんと激論を交わしましたよ(笑)」

2Fの部屋とロフト以外は、遮るものがなく、ぽっかり空いた空間には、日光がさんざん降り注ぐ。天窓は、メーカーからいちばん大きなものを取り寄せた。この天窓と1Fの掃出しを全開にすれば、丘陵を走る風が下から上に吹き抜ける。